

第14回図書館総合展に参加して

大上良樹

1 はじめに

図書館総合展とは、図書館関係者向けの見本市のことで、企業ブースの出展だけでなく、フォーラムなども開催される業界最大のイベントのことである。ちなみに、第1回は1999年に東京国際フォーラムで開催された。

公式ホームページ (<http://2012.libraryfair.jp/>) では、以下のように説明されている。

『図書館を使う人、図書館で働く人、図書館に関わる仕事をしている人達が、“図書館の今後”について考え、「新たなパートナーシップ」を築いていく場です。当日会場では、図書館にまつわる様々なフォーラムやプレゼンテーション、多様な団体によるポスターセッション、そして企業による最新の技術や動向が伺えるブース出展など、様々な企画が行われます。図書館関係企業、図書館職員の皆様はもちろんのこと、学生や一般の方々のご参加を心よりお待ちしております。』

図書館事務室へ異動となり2年目を迎えた私にとって、大学図書館に関する最新の情報が得られるまたとない機会であると考え、参加を希望した。

今年の概要は以下のとおり。

- 【開催日時】 2012年11月20日(火)～11月22日(木)
10:00～18:00
- 【会場】 パシフィコ横浜
- 【主催】 図書館総合展運営委員会
- 【企画・運営】 JCC カルチャー・ジャパン

私は、3日間のうち2日目の11月21日(水)に参加し、午前中は出展者のブースを見学した。出展者の一覧は右記の出展者小間番号リストと小間配置図(「第14回図書館総合展ガイドブック」より抜粋)を参照したい。業界最大のイベントといわれるだけのことはあり、約100余りの企業や団体が一同にブースを設けている会場の景色は圧巻であった。その中

から私は、「富士通株」のブースで、平成25年2月以降に稼働予定の新図書館システム「iLiswave-J

第14回図書館総合展 出展者小間番号リスト

●各出展者の小間番号を参考に5頁の小間配置図にて場所をご確認ください。

出展者名	小間番号	出展者名	小間番号
アイリス・サーポート	97	富士通株(株)	175
アイリス・システムズ(株)	99	大日本印刷(株)	176
アイリス・システムズ(株) [ARG]	60	(株)ダイワインテックス	48
(株) 総合情報システム	30	(株) デイジー	13
(株) 新学書局	83	平塚大学アカデミックリソースセンター	188
アイリス・システムズ(株) 学芸書局	95	東京大学附属図書館	98
アイリス・システムズ(株) 学芸書局	96	東京大学デジタルライブラリーセンター	177
アイリス・システムズ(株) 学芸書局	97	(株) DPCジャパン	90
(株) 学芸書局	98	イオンシステムグループ	84
(株) 学芸書局	99	電子書籍普及推進協議会	60
(株) 学芸書局	100	東京大学附属図書館	99
(株) 学芸書局	101	新報社(株)	27
(株) 学芸書局	102	新報社(株)	28
(株) 学芸書局	103	新報社(株)	29
(株) 学芸書局	104	新報社(株)	30
(株) 学芸書局	105	新報社(株)	31
(株) 学芸書局	106	新報社(株)	32
(株) 学芸書局	107	新報社(株)	33
(株) 学芸書局	108	新報社(株)	34
(株) 学芸書局	109	新報社(株)	35
(株) 学芸書局	110	新報社(株)	36
(株) 学芸書局	111	新報社(株)	37
(株) 学芸書局	112	新報社(株)	38
(株) 学芸書局	113	新報社(株)	39
(株) 学芸書局	114	新報社(株)	40
(株) 学芸書局	115	新報社(株)	41
(株) 学芸書局	116	新報社(株)	42
(株) 学芸書局	117	新報社(株)	43
(株) 学芸書局	118	新報社(株)	44
(株) 学芸書局	119	新報社(株)	45
(株) 学芸書局	120	新報社(株)	46
(株) 学芸書局	121	新報社(株)	47
(株) 学芸書局	122	新報社(株)	48
(株) 学芸書局	123	新報社(株)	49
(株) 学芸書局	124	新報社(株)	50
(株) 学芸書局	125	新報社(株)	51
(株) 学芸書局	126	新報社(株)	52
(株) 学芸書局	127	新報社(株)	53
(株) 学芸書局	128	新報社(株)	54
(株) 学芸書局	129	新報社(株)	55
(株) 学芸書局	130	新報社(株)	56
(株) 学芸書局	131	新報社(株)	57
(株) 学芸書局	132	新報社(株)	58
(株) 学芸書局	133	新報社(株)	59
(株) 学芸書局	134	新報社(株)	60
(株) 学芸書局	135	新報社(株)	61
(株) 学芸書局	136	新報社(株)	62
(株) 学芸書局	137	新報社(株)	63
(株) 学芸書局	138	新報社(株)	64
(株) 学芸書局	139	新報社(株)	65
(株) 学芸書局	140	新報社(株)	66
(株) 学芸書局	141	新報社(株)	67
(株) 学芸書局	142	新報社(株)	68
(株) 学芸書局	143	新報社(株)	69
(株) 学芸書局	144	新報社(株)	70
(株) 学芸書局	145	新報社(株)	71
(株) 学芸書局	146	新報社(株)	72
(株) 学芸書局	147	新報社(株)	73
(株) 学芸書局	148	新報社(株)	74
(株) 学芸書局	149	新報社(株)	75
(株) 学芸書局	150	新報社(株)	76
(株) 学芸書局	151	新報社(株)	77
(株) 学芸書局	152	新報社(株)	78
(株) 学芸書局	153	新報社(株)	79
(株) 学芸書局	154	新報社(株)	80
(株) 学芸書局	155	新報社(株)	81
(株) 学芸書局	156	新報社(株)	82
(株) 学芸書局	157	新報社(株)	83
(株) 学芸書局	158	新報社(株)	84
(株) 学芸書局	159	新報社(株)	85
(株) 学芸書局	160	新報社(株)	86
(株) 学芸書局	161	新報社(株)	87
(株) 学芸書局	162	新報社(株)	88
(株) 学芸書局	163	新報社(株)	89
(株) 学芸書局	164	新報社(株)	90
(株) 学芸書局	165	新報社(株)	91
(株) 学芸書局	166	新報社(株)	92
(株) 学芸書局	167	新報社(株)	93
(株) 学芸書局	168	新報社(株)	94
(株) 学芸書局	169	新報社(株)	95
(株) 学芸書局	170	新報社(株)	96
(株) 学芸書局	171	新報社(株)	97
(株) 学芸書局	172	新報社(株)	98
(株) 学芸書局	173	新報社(株)	99
(株) 学芸書局	174	新報社(株)	100
(株) 学芸書局	175	新報社(株)	101
(株) 学芸書局	176	新報社(株)	102
(株) 学芸書局	177	新報社(株)	103
(株) 学芸書局	178	新報社(株)	104
(株) 学芸書局	179	新報社(株)	105
(株) 学芸書局	180	新報社(株)	106
(株) 学芸書局	181	新報社(株)	107
(株) 学芸書局	182	新報社(株)	108
(株) 学芸書局	183	新報社(株)	109
(株) 学芸書局	184	新報社(株)	110
(株) 学芸書局	185	新報社(株)	111
(株) 学芸書局	186	新報社(株)	112
(株) 学芸書局	187	新報社(株)	113
(株) 学芸書局	188	新報社(株)	114
(株) 学芸書局	189	新報社(株)	115
(株) 学芸書局	190	新報社(株)	116
(株) 学芸書局	191	新報社(株)	117
(株) 学芸書局	192	新報社(株)	118
(株) 学芸書局	193	新報社(株)	119
(株) 学芸書局	194	新報社(株)	120
(株) 学芸書局	195	新報社(株)	121
(株) 学芸書局	196	新報社(株)	122
(株) 学芸書局	197	新報社(株)	123
(株) 学芸書局	198	新報社(株)	124
(株) 学芸書局	199	新報社(株)	125
(株) 学芸書局	200	新報社(株)	126
(株) 学芸書局	201	新報社(株)	127
(株) 学芸書局	202	新報社(株)	128
(株) 学芸書局	203	新報社(株)	129
(株) 学芸書局	204	新報社(株)	130
(株) 学芸書局	205	新報社(株)	131
(株) 学芸書局	206	新報社(株)	132
(株) 学芸書局	207	新報社(株)	133
(株) 学芸書局	208	新報社(株)	134
(株) 学芸書局	209	新報社(株)	135
(株) 学芸書局	210	新報社(株)	136
(株) 学芸書局	211	新報社(株)	137
(株) 学芸書局	212	新報社(株)	138
(株) 学芸書局	213	新報社(株)	139
(株) 学芸書局	214	新報社(株)	140
(株) 学芸書局	215	新報社(株)	141
(株) 学芸書局	216	新報社(株)	142
(株) 学芸書局	217	新報社(株)	143
(株) 学芸書局	218	新報社(株)	144
(株) 学芸書局	219	新報社(株)	145
(株) 学芸書局	220	新報社(株)	146
(株) 学芸書局	221	新報社(株)	147
(株) 学芸書局	222	新報社(株)	148
(株) 学芸書局	223	新報社(株)	149
(株) 学芸書局	224	新報社(株)	150
(株) 学芸書局	225	新報社(株)	151
(株) 学芸書局	226	新報社(株)	152
(株) 学芸書局	227	新報社(株)	153
(株) 学芸書局	228	新報社(株)	154
(株) 学芸書局	229	新報社(株)	155
(株) 学芸書局	230	新報社(株)	156
(株) 学芸書局	231	新報社(株)	157
(株) 学芸書局	232	新報社(株)	158
(株) 学芸書局	233	新報社(株)	159
(株) 学芸書局	234	新報社(株)	160
(株) 学芸書局	235	新報社(株)	161
(株) 学芸書局	236	新報社(株)	162
(株) 学芸書局	237	新報社(株)	163
(株) 学芸書局	238	新報社(株)	164
(株) 学芸書局	239	新報社(株)	165
(株) 学芸書局	240	新報社(株)	166
(株) 学芸書局	241	新報社(株)	167
(株) 学芸書局	242	新報社(株)	168
(株) 学芸書局	243	新報社(株)	169
(株) 学芸書局	244	新報社(株)	170
(株) 学芸書局	245	新報社(株)	171
(株) 学芸書局	246	新報社(株)	172
(株) 学芸書局	247	新報社(株)	173
(株) 学芸書局	248	新報社(株)	174
(株) 学芸書局	249	新報社(株)	175
(株) 学芸書局	250	新報社(株)	176
(株) 学芸書局	251	新報社(株)	177
(株) 学芸書局	252	新報社(株)	178
(株) 学芸書局	253	新報社(株)	179
(株) 学芸書局	254	新報社(株)	180
(株) 学芸書局	255	新報社(株)	181
(株) 学芸書局	256	新報社(株)	182
(株) 学芸書局	257	新報社(株)	183
(株) 学芸書局	258	新報社(株)	184
(株) 学芸書局	259	新報社(株)	185
(株) 学芸書局	260	新報社(株)	186
(株) 学芸書局	261	新報社(株)	187
(株) 学芸書局	262	新報社(株)	188
(株) 学芸書局	263	新報社(株)	189
(株) 学芸書局	264	新報社(株)	190
(株) 学芸書局	265	新報社(株)	191
(株) 学芸書局	266	新報社(株)	192
(株) 学芸書局	267	新報社(株)	193
(株) 学芸書局	268	新報社(株)	194
(株) 学芸書局	269	新報社(株)	195
(株) 学芸書局	270	新報社(株)	196
(株) 学芸書局	271	新報社(株)	197
(株) 学芸書局	272	新報社(株)	198
(株) 学芸書局	273	新報社(株)	199
(株) 学芸書局	274	新報社(株)	200
(株) 学芸書局	275	新報社(株)	201
(株) 学芸書局	276	新報社(株)	202
(株) 学芸書局	277	新報社(株)	203
(株) 学芸書局	278	新報社(株)	204
(株) 学芸書局	279	新報社(株)	205
(株) 学芸書局	280	新報社(株)	206
(株) 学芸書局	281	新報社(株)	207
(株) 学芸書局	282	新報社(株)	208
(株) 学芸書局	283	新報社(株)	209
(株) 学芸書局	284	新報社(株)	210
(株) 学芸書局	285	新報社(株)	211
(株) 学芸書局	286	新報社(株)	212
(株) 学芸書局	287	新報社(株)	213
(株) 学芸書局	288	新報社(株)	214
(株) 学芸書局	289	新報社(株)	215
(株) 学芸書局	290	新報社(株)	216
(株) 学芸書局	291	新報社(株)	217
(株) 学芸書局	292	新報社(株)	218
(株) 学芸書局	293	新報社(株)	219
(株) 学芸書局	294	新報社(株)	220
(株) 学芸書局	295	新報社(株)	221
(株) 学芸書局	296	新報社(株)	222
(株) 学芸書局	297	新報社(株)	223
(株) 学芸書局	298	新報社(株)	224
(株) 学芸書局	299	新報社(株)	225
(株) 学芸書局	300	新報社(株)	226
(株) 学芸書局	301	新報社(株)	227
(株) 学芸書局	302	新報社(株)	228
(株) 学芸書局	303	新報社(株)	229
(株) 学芸書局	304	新報社(株)	230
(株) 学芸書局	305	新報社(株)	231
(株) 学芸書局	306	新報社(株)	232
(株) 学芸書局	307	新報社(株)	233
(株) 学芸書局	308	新報社(株)	234
(株) 学芸書局	309	新報社(株)	235
(株) 学芸書局	310	新報社(株)	236
(株) 学芸書局	311	新報社(株)	237
(株) 学芸書局	312	新報社(株)	238
(株) 学芸書局	313	新報社(株)	239
(株) 学芸書局	314	新報社(株)	240
(株) 学芸書局	315	新報社(株)	241
(株) 学芸書局	316	新報社(株)	242
(株) 学芸書局	317	新報社(株)	243
(株) 学芸書局	318	新報社(株)	244
(株) 学芸書局	319	新報社(株)	245
(株) 学芸書局	320	新報社(株)	246
(株) 学芸書局	321	新報社(株)	247
(株) 学芸書局	322	新報社(株)	248
(株) 学芸書局	323	新報社(株)	249
(株) 学芸書局	324	新報社(株)	250
(株) 学芸書局	325	新報社(株)	251
(株) 学芸書局	326	新報社(株)	252
(株) 学芸書局	327	新報社(株)	253
(株) 学芸書局	328	新報社(株)	254
(株) 学芸書局	329	新報社(株)	255
(株) 学芸書局	330	新報社(株)	256
(株) 学芸書局	331	新報社(株)	257
(株) 学芸書局	332	新報社(株)	258
(株) 学芸書局	333	新報社(株)	259
(株) 学芸書局	334	新報社(株)	260
(株) 学芸書局	335	新報社(株)	261
(株) 学芸書局	336	新報社(株)	262
(株) 学芸書局	337	新報社(株)	263
(株) 学芸書局	338	新報社(株)	264
(株) 学芸書局	339	新報社(株)	265
(株) 学芸書局	340	新報社(株)	266
(株) 学芸書局	341	新報社(株)	267
(株) 学芸書局	342	新報社(株)	268
(株) 学芸書局	343	新報社(株)	269
(株) 学芸書局	344	新報社(株)	270
(株) 学芸書局	345	新報社(株)	271
(株) 学芸書局	346	新報社(株)	272
(株) 学芸書局	347	新報社(株)	273
(株) 学芸書局	348	新報社(株)	274
(株) 学芸書局	349	新報社(株)	275
(株) 学芸書局	350	新報社(株)	276
(株) 学芸書局	351	新報社(株)	277
(株) 学芸書局	352	新報社(株)	278
(株) 学芸書局	353	新報社(株)	279

V3」の特徴や新機能について説明を受けた。

午後からは当日開催された2つのフォーラムに出席した。以下にその内容を報告することとしたい。

2 「図書館の業務委託導入は正解であったか」

図書館の委託戦略を4大学と語る

【パネルディスカッション】

講師：中元 誠氏（早稲田大学 図書館事務部長）

大川龍太郎氏（成城大学 図書館運用課長）

堀口 和弘氏（関西大学 図書館事務長）

井上 弓子氏（龍谷大学 図書館事務部課長）

ファシリテーター：奥田 悠子氏

（株式会社キャリアパワー取締役事業本部長）

株式会社キャリアパワーの主催のもと、13：00～14：30の90分間で行われた。フォーラムは事前の予約で満席となっており、キャンセル待ち30名超、当日立ち見希望の方も来られるなど、図書館における業務委託導入に関する関心の高さが伺えた。

初めに、別紙配付資料に基づき、スケジュール紹介が行われた。続いて、開会挨拶があり、第1部の開会となった。以下、スケジュールごとに内容を記載する。

(1) 第1部

第1部は「受託側から見た委託を取り巻く環境の変化」というテーマで、株式会社キャリアパワー取締役事業本部長奥田悠子氏より、レジメに基づき、以下の3つの項目について解説があった。

ア 17年前、図書館業務委託導入時の状況

イ 競争原理と弊社の考え方

ウ 業務委託におけるコンプライアンス

- 非正規社員の実態
- 有期契約終了時対応の考え方
- 派遣法との関連
- 適正な委託運営のために

アでは、まず、京都の総合大学で人材派遣を始めた経緯の説明があった。きっかけは、利用者からの開館時間の延長要望で、コストを抑えながらいかに利用者の要望に応じていくか課題であった中、図書館は専門業務が多く過去から人事異動が難しい部署であり、定年退職を迎える人が増えてきた現状であった。そのため、このままでは専門的な業務を継承

していくことが困難であるという結論となり、委託導入に踏み切ったとのことである。

イでは、キャリアパワー以外にも参入する企業が増え、委託料の値崩れが起こったため、コスト削減のための委託料金を見直す取り組みを行ったと説明があった。キャリアパワーでは、スタッフを安定させることに重点をおいており、そのため、「研修メニュー」を準備しているのはもちろん、「コース選択」、「評価制度」についても、設けている。

さらに、長期的な視点から、Win Win Winの関係を築くこと（これを解説では、「三方よし」と説明されていた。三方＝就業者〔スタッフ〕、委託先〔大学図書館〕、受託企業〔キャリアパワー〕）をモットーにしているとの説明があった。これは、本学での業務委託の方々を見ても感じる部分であり、「人」を大事にしていることが非常に伝わる内容であった。

ウでは、2012年10月に改正された「派遣法」、2013年4月から施行される「改正労働契約法」に関して触れられたあと、キャリアパワーが委託のProfessionalとして、①図書館の専門知識、②労務管理能力、③委託運営の経験と実績、④労働問題、法的な知識、の4点を武器とし、今後の委託業務に取り組んでいくとの説明があり、第1部は終了となった。

(2) 第2部

第2部は、「図書館の委託戦略を4大学と語る」というテーマで、早稲田大学図書館事務部長中元誠氏、成城大学図書館運用課長大川龍太郎氏、関西大学図書館事務長堀口和弘氏、龍谷大学図書館事務部課長井上弓子氏の4名の講師と、第1部の解説をされた奥田氏をファシリテーターとしてパネルディスカッションが行われた。

まず、初めに、早稲田大学中元氏より、キャリアパワーが図書館へ人材派遣を始めてからの今日に至るまでの17年間で大学がどのように変わったか、大学の数、専任職員数の数の変化について触れられた。

○大学数の変化

年/大学種別	国立	公立	私立
1997年	98	57	431
2011年	86	81	602

○専任職員（平均数）の変化

年 / 大学種別	国立	公立	私立
1997年	24	9	13
2012年	20	4	6

大学の数は17年間で1.3倍増加しているが、2012年の時点で、私立大学の定員割れの割合は45.8%になっている。専任職員数で見ると、国立は善戦しているが、公立と私立では、半減以下となっている。こういった状況の中で図書館サービスをどのように考えていくかが問題となるが、図書館サービスというものは、人が減ったからといってサービスの縮小はできない業務である。専任職員が減少していく中、一つのやり方として業務委託を行うことが考えられたとの説明があった。

次に、実際の業務委託を導入している3大学の導入経緯と委託範囲について、成城大学大川氏、関西大学堀口氏、龍谷大学井上氏の順に説明があった。ここでは、本学関大の説明内容について私がメモしてきた内容を記載する。

- 1998年12月、夜間学生からの開館時間の延長要望に始まり、2000年4月には祝日開館、フロアごとの開館時間の一本化を行った。
- 図書館のめざすべき方向として、ビジョン7項目を策定
- 委託範囲は、カウンター、書庫、ガイダンス、盗難巡回、相互利用、装備目録、他キャンパス（高槻、高槻ミューズ、堺）の図書館（室）の運営
- 汎用機からUNIXへ切り替えたことで納品から配架までのスピードアップを実現
- 1990年代前半は新人職員が2～3名配属されていたが、人事方針転換により、ここ数年は他部署への異動者が増加している。

続いて、委託によって専任職員のコア業務がどう変化したか、カウンター業務やレファレンス業務等、ほぼ全面委託を行っている関西大学と龍谷大学の現状について、関西大学堀口氏、龍谷大学井上氏から説明があり、それを受け、成城大学大川氏より、関西大学と龍谷大学の現状を聞いた感想が述べられた後、今後全面委託を検討していくうえでの課題等について説明があった。

最後に、早稲田大学中元氏より、図書館のコア業務、新たな専任職員の役割について、意見が述べられている中、終了予定時間が来てしまいディスカッションは終了となった。

このパネルディスカッションでは、本学の業務委託導入事例や図書館における専任職員の業務の変化について学ぶことができたのは勿論のこと、他大学の導入の現状、大学図書館業界において、フロントランナーの一角を担う早稲田大学図書館事務部長の考えをライブで聞くことができたのは、貴重な機会であった。

3 EBSCO Discovery Service～ユーザーによる報告と最新情報～

EBSCO社主催のもと、15:30～17:00の90分間で行われた。当日の内容は以下のとおり。

■開会挨拶

- EBSCO International Inc. 磯崎 仁氏

■EDSユーザーによる講演

- 立命館大学 安東 正玄氏
- 福井大学 久保 智靖氏
- 大阪大学 坂本 祐一氏
- 質疑応答、ディスカッション

【共通トピック】

- EDSに期待したこと
(図書館運営上の効果、教育/研究への寄与等)
- 導入までのプロセス
(予算・技術・時間の観点から)
- 導入後の効果
- 今後の期待

■EBSCO社プレゼンテーション

- EBSCO International Inc. 古永 誠氏

【トピック】

- 海外の事例紹介（導入実績、運用事例、導入後の効果等）
- 最近のニュースと今後の予定（新コンテンツ、新機能の紹介）

■閉会挨拶

- EBSCO International Inc. 磯崎 仁氏

このフォーラムについては、EDSユーザーによる講演を聞き、今後の業務に生かせると自分自身が感じた点について、各大学の講演ごとに記載する。

(1) EBSCO Discovery Service導入とその後

講演者：立命館大学 図書館サービス課

安東 正玄氏

ア 導入を判断した背景（主なものを記載）

【外的要因】

- 大学図書館の役割の変化（管理中心から利用中心へ：ラーニングコモンズ）
- 大学を取り巻く環境変化
→競争の激化、教育の質向上

【内的要因】

- OPAC 中心からの卒業
 - Google 的なサービスの提供
- ⇒導入に関して、外的要因、内的要因それぞれの視点から分析されている。

イ 経過（概略）

年	内容
2009年4月	次期システムに向けてゼロから情報収集
2010年5月	構想案を部内で調整（Discovery Service 前提）
2010年10月	次期図書館システム開発方針、仕様書確定
2010年12月	学内コンセンサス
2011年1月	Summon 日本語対応報道、EBSCO 来校（日本語対応完了）
2011年2月	財務部門との交渉開始
2011年9月	予算「枠」確定
2011年10月	EBSCO Discovery Service 決定
2012年1月	OPAC との連携調整スタート
2012年3月末	新図書館システムスタート
2012年6月末	Discovery Service 正式スタート

⇒情報収集から Discovery Service スタートに辿り着くまでのプロセスは、EDS 導入に限らず、本学での様々なサービス導入を考える際にも、有用なものと思われる。

(2) 福井大学における EDS の設計

講演者：福井大学附属図書館 久保 智靖氏

【EDS の導入のコンセプト】

- アンケート調査 1
図書館の利用目的（総合図書館）
- アンケート調査 2
総合図書館でのデータベース利用
- DB の購入金額

⇒サービス導入に際し、アンケート調査を行い利

用者のニーズを把握している。また、導入の理由が「DB 購入金額の高騰に対する抑止策として」と明確な点は、参考にすべきであろう。

(3) ディスカバリーサービスの導入

— 一大阪大学の場合 —

講演者：大阪大学附属図書館

学術情報整備室 坂本 祐一氏

ア なぜ EDS 導入を検討したか

- 契約電子コンテンツの利用促進
- 最良のアクセスの提供
- 学生の電子コンテンツ利用を増やしたい

イ EDS を選定した理由

- 本学に必要な電子コンテンツが他社製品より搭載されている
 - 検索対象を限定する設定が可能
- ⇒アのサービス導入を検討した目的が明確であること、イのディスカバリーサービス導入にあたり、複数の候補の中から、なぜ EBSCO 社の製品を選択したかというように理由が明瞭な点は参考にてできると思われる。

4 最後に

今回の研修（イベント）に参加し私が最も感じたことは、情報の取捨選択と視野の拡大に関する重要性である。

日々新たなサービスが提供される環境は進化し、多くの情報が配信されている。今、本学図書館に足りないものは何か、何が求められているか利用者のニーズを把握し、そのうえで、多種多様な情報の中から必要なものを選択する能力が求められている。その能力向上の一環として、このような研修の機会を活用し、視野を広げることが肝要であると思う。日々の業務から離れ、研修を通じて得るものは思いの外大きいものがあると感じる。これからの図書館を担う人材となる後輩の職員にも、ぜひ参加をすすめたい研修（イベント）であった。

以上

（おおがみ よしき 図書館事務室）